

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社 百々		
事業所名	グループホーム百々(1階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32番地		
自己評価作成日	平成23年7月22日	評価結果市町村受理日	平成23年9月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170600486&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成23年8月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的な雰囲気の中でこころ安らぐ毎日を」送れるように、心温かい安らぎと安心感が持てるホーム作りに努めています。今年度は接遇をテーマに取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅地に、広い庭を持ち、地域の住民が気軽に顔を出すことのできるグループホームである。家庭的な雰囲気、笑顔が絶えない一日を手伝うことが出来ればと、職員はあたたかい言葉・寄り添う支援に取り組んでいる。利用者の家族・友人が立ち寄れば、気持ち良く受け入れ、利用者が我が家に招いた様な雰囲気となるよう全職員が取り組んでいる。職員の研修が数多く行われ、外部の研修にも積極的に参加し、資格取得を奨励し、職員の質的向上に向けた環境も整備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中でこころ安らぐ毎日を」送れるように、心温かいホームを目指している。職員会議で接遇に対する振り返りを行い、安らぎと安心感の持てるホームづくりに努めている。	理念は、「家庭的な雰囲気の中で心が安らぐ」とし、目の届くところに掲示し、全職員が毎日確認している。さらに、年次目標を掲げ、理念の実践につなげている。利用者は、地域と交流の輪を広げながら、安らぎと安心感のある日々を支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して地域への交流の輪が広がっている。地域の方がホームに必要な古新聞を届けて下さったり、野菜や果物の差し入れを頂いたり、今年より子供110番を行っている。	自治会に加入し、広報などで行事の情報交換を行っている。清掃活動の分担は、ホームの近隣を中心に行っている。祭り・音楽療法・レクリエーションなど、ホーム行事に独居の高齢者を招待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の方や相談者には介護保険やグループホームについて、介護のポイントなどを相談にのっている。又、運営推進会議を通して、認知症の方の理解を深めて頂ける様、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より運営推進会議の議題を明確にし、活動報告だけではなく、ホームで取組んでいることや事故報告(原因、対応、対策)、災害や避難時についてなど議題にあげている。	会議は、自治会長・民生委員・地域包括支援センター・家族が参加し、2ヶ月に1回開催されている。ホームの行事、利用者の状態などを報告し、認知症の理解を深める会議にしている。災害対策も話し合い、事業運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の利用者状況、待機者の報告や事故報告、介護相談員の受け入れなど町との連携に努めている。又、町主催の勉強会を通して他のホームとの情報交換に努めている。	行政には、毎月運営状況を報告したり、困難事例の相談をしている。今回、ホームの食品衛生に関する取り組みを、町に報告している。また、町へ介護相談員の派遣を要請したり、町の呼びかけによる勉強会等に、参加し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの取り組み」を提示し、職員の身体拘束についての理解を得ている。しかし、どうしても安全面よりベッド柵が必要な方はご本人、ご家族に説明、同意のもと使用している。	「身体拘束ゼロの取り組み」を玄関に掲示し、職員研修を重ねている。安全面でやむ得ない場合は、家族に説明し、時間・期間を限定し同意を得るなど、拘束を最小限にするケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待についての勉強会を設けている。言葉による虐待については具体例を出し、職員間の理解を深めることで虐待のないホームに取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加した職員は学ぶ機会を得ているが、すべての職員が参加できているわけではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ありのままのホームを見て頂き、説明、ご理解、ご納得の上でご承諾を頂いている。契約後も不安や疑問点、ご要望などには、説明と出来る限りの柔軟な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは何でも気兼ねなく話せる関係作りに努めている。頂いたご意見は早急に話し合い、改善に取り組んでいる。介護相談員の受け入れを行い利用者の方の思いの聞き取りに取り組んでいる。	家族の訪問時や、誕生会に招いた家族から意見を聞いている。「音楽を流してほしい」との意見があり、他の家族から音楽CDの提供があった。また、誕生会の料理やケーキ作りに、利用者・家族も参加させるなどの提案があり、要望を受け入れて実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1階のミーティングで、業務の改善点に向けての話し合いを設けている。トイレの手すりやお風呂場の手すりなど、職員からの意見を元に出来ることから取り組んでいる。	車椅子の利用者が増え、トイレ、風呂の手すりの位置が不具合であるなど、職員からの意見が出され、位置を変更している。また、食材を無駄にしない方法などの意見も出され、速やかに改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を奨励している。時間外労働書類の見直しを行い、残業内容を明確にし把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修や中堅研修、実務者研修など外部研修への参加に取り組んでいる。学んだ研修内容は職員会議を通して他の職員への共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を通して地域のグループホームとの情報交換や他ホームとの外出や管理者との情報交換を行いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では必ずご本人に会い、リラックスした雰囲気作りに心がけ、本人の思いや不安を聞き取り受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が何が困っているのか、何を求めて見えるのか、ご本人との思いのずれなど、傾聴する中で受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と相談の上、サービスの開始時期を調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵を教えていただいたり、一緒に家事等を行うことで、家族的な関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月郵送する暮らしの日記を通して、利用者の様子や状態を報告し、理解受け止めていただく中で、共にご本人を支えあう支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関は施錠せず、日中は開放している。ご家族以外に知人や昔の同僚の訪問がある。なじみの場所への外出の支援には努めているが、車イス利用者が多くなった現状である。	「近くに来たので寄りました」など、昔の同僚の訪問がある。職員は、訪問者と利用者が居心地良く過ごせるよう、雰囲気づくりに努め、歓迎している。外出による馴染みの交流を希望する場合は、家族に伝え、同行を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの過ごし方、食事の席等、利用者同士が心地よい関係でいられるように、出来るだけの配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了後もご本人の面会に行ったり、ご家族と連絡を取り、経過の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で、一人一人の思いや意向を汲み取るよう、努めている。また、その日の生活ペースもご本人に合わせている。	職員は、利用者に寄り添い、隣に座って話を聴き、思いや意向を受け止めている。個人の生活ペースに合わせ、笑顔が出るまで時間を掛け、傾聴することで思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにおいてこれまでの暮らしや生活歴の把握に努め、新しい情報や気付きは職員が書き込めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ごとに介護記録を作成し、一日の流れとして把握できるようにしている。また、心身の状態での気付きは看護師、他の職員にも伝え経過をみている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでケアの振り返りを行っている。それ以外のプラン修正については、日勤者で話し合い、連絡ノートに記入しケアに取り組んでいる。ご家族面会時には、状態報告を行っている。	暮らしの日記・介護記録に利用者の日々のケアを記入している。毎月の職員会議で更に検討し、利用者・家族の意見や要望を取り入れ、必要に応じ専門職の意見を踏まえ、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとの介護記録やケアプランを載せ、ケアを実施した結果や状況を記録に残している。又、こうした方がいいという意見は会議で話し合い取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物代行やご家族が対応できない病院受診、付添、散髪サービスを行っている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と同じ町内の方主催のボランティアや馴染みある喫茶店への外出支援、利用者と一緒に消防、避難、消火訓練への参加に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホーム連携医の説明を行い、希望のかかりつけ医の確認を行っている。又、緊急時はどの病院希望かわかるように掲示してある。ご本人の情報も一つのファイルにまとめてある。	利用開始時に、利用者・家族にかかりつけ医の説明をしている。協力医を希望する場合は、職員が受診に同行し、対応している。他の病院での受診には、原則、家族が対応している。緊急の場合は、促対応できる体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中看護師が在籍しており、介護職との情報交換や健康管理に努めている。看護師は主治医と連携を図り、内服管理や状態把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は早期に面会し、ホームでの情報提供に努めている。退院においては現在の状態を把握し、ホームで出来ることと出来ないことなど医療側と話し合い、退院調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて事業所としてできること、できないことをご家族に説明し、ご理解に努めている。また、かかりつけ医や協力医と相談しながら、方針を定めている。	重度化や終末期の対応は、家族の希望を把握し、利用開始時に、あらかじめ、「できること・できない」ことを説明し、理解を得ている。医療行為が必要になった場合は、家族・協力医・かかりつけ医と十分に相談し、方針を決めている。	重度化に向けて、一定の方針を早い段階で関係者と話し合いができるように、文書化し、方針を共有できるような取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は消防の方に来ていただき、ホーム内で心肺蘇生、誤嚥、窒息の勉強会を行う事を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定のお知らせ訓練、避難訓練、消火訓練を実施している。運営推進会議をとおして避難誘導後の利用者の安全確保を地域の方へのご理解とお協力をお願いしている。	消防署の協力を得て、避難訓練・消火訓練を実施している。運営推進会議等に提案し、避難誘導後の利用者の保護など、安全確保について、地域の協力を依頼している。	大規模災害も想定される中、利用者・家族・地域住民等と連携した訓練の実施に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングで接遇やプライバシーの勉強会を行い、高齢者の尊厳を守ること、あたたか言葉を遣う事を今年度の目標として掲げている。	年次目標が「プライバシーとは何かを考え取り組んでいこう」であり、職員間で、優しく・あたたかい言葉かけが定着している。人格を尊重し、利用者は名前で呼び、誇りを損ねない言動を全職員で徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いにじっくり向き合うように取り組んでいる。又、生活の中で自己決定する場面作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や体調に応じて、その日その日のご本人のペースに合わせた生活に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択が出来ない方はこちらで選んでいる。生活の中で汚れたままになっていないか、肌着が出たままになっていないか、細やかな身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭にできた野菜類と一緒に収穫したり、旬な野菜と一緒に調理したり、座ってできる下ごしらえなど交流の場となるように努めている。	ホームの庭にある畑で、野菜を育てる楽しみと収穫の喜びを味わっている。食材として調理し、次の野菜作りの話題にしている。食卓は、交流の場でもあり、楽しい雰囲気づくりに努め、利用者も椅子に座り、料理の準備を手伝ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事に配慮していると同時に、水分摂取も確実に把握できるようチェック表を活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食口腔ケアを行っており、歯科の先生お勧めのお茶での口腔ケアを行っている。洗面台に届かない方は洗面器を使用して行っている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表活用にて一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に取り組んでいる。また、少しでもご家族の負担が軽減できる様、オムツ、パットの見直しを行っている。	排泄チェック表を記入し、個人の排泄パターンを把握し、昼間はトイレに誘導している。夜間は安全面から、ポータブル等を利用する場合もある。家族の負担を軽減するため、布パンツ・紙オムツ・紙パッドの利用等の見直しを実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1か月の排便習慣が分かるように記録しており、毎朝の牛乳やヨーグルト、内服が必要な方は日中に排便が出るように、内服時間を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回がベースにあるが、その日の体調や気分に応じて曜日の変更をしている。また、浴槽イスや介助人数など入浴方法も一人一人に応じた方法で行っている。	入浴は、週に3回行っている。利用者の希望や個々の体調に合わせて、曜日の変更、清潔維持など、柔軟な対応・支援をしている。入浴の時間は、職員と利用者の会話がはずむ場所でもあり、思わぬ利用者の一面を見いだすなど、楽しい時間を共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況やその日の体調を考慮し、一人一人に合わせた休息を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前、用法、日付を記入し、職員が声に出して確認しながら配薬もしくは介助を行っている。症状変化に伴う服薬の判断は看護師のもと、行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調や気分を考慮しながら、調理活動やお茶っぱ詰め、洗濯たたみや新聞たたみ、レク活動としてクッキー作りやケーキ作りなど楽しみごとの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の外に行きたい希望が当日職員で対応できない時は、ご家族にお願いしご協力を得ている。また、楽しみごととしてスーパーやマック、ミスタードーナツ、喫茶店など外出支援を行っている。	利用者がグループごとに計画し、スーパーやファーストフード店など、希望の場所に職員と共に外出している。健康状態や気候に合わせて、近隣を散歩している。遠方の希望には、家族に協力を依頼している。	

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の力量とご家族の意向に応じてお金を所持して見える方もみえる。持って見えない方は、こちらで立て替え、月末の請求書につけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望があるときは、代行の支援をおこなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアは車イスの移動がしやすいようにテーブルの間を広く取ったり、ソファを設置している。季節感ある貼り絵や折り紙などの作品が飾られている。	車椅子でゆったり移動できるスペースがあり、安全に安心して移動ができる。家族と共に楽しんだ思い出の写真が飾られ、利用者・職員で作成した作品が掲示されている。ソファにゆっくり腰を下ろし、くつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は利用者同士の関係を考慮した席の配置にしている。食事以外はソファに座られたり、車イスの向きを変えてテレビを見られるなど思い思いに過ぎて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染みあるものをお勧めし、ご本人にとって安らげる居室作りに努めている。安全面を配慮し、クローゼットの活用やベッドの向きも考慮している。	クローゼットを活用し、部屋が広々と使えるよう、整理されている。家族と共に持ち込まれた整理ダンス・鏡台など、馴染みの物が部屋に置かれ、本人が落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、わかることを尊重し、トイレでの排泄をできるだけ行っている。また、介助しすぎず、励ましながら出来る力を維持できるように取り組んでいる。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600486		
法人名	有限会社 百々		
事業所名	グループホーム百々(2階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町上印食2丁目32番地		
自己評価作成日	平成23年7月22日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成23年8月11日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票(2階)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中でこころ安らぐ毎日を」送れるように、心温かいホームを目指している。職員会議で接遇に対する振り返りを行い、安らぎと安心感の持てるホームづくりに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通して地域への交流の輪が広がっている。地域の方がホームに必要な古新聞を届けて下さったり、野菜や果物の差し入れを頂いたり、今年より子供110番を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学の方や相談者には介護保険やグループホームについて、介護のポイントなどを相談にのっている。又、運営推進会議を通して、認知症の方の理解を深めて頂ける様、努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より運営推進会議の議題を明確にし、活動報告だけではなく、ホームで取組んでいることや事故報告(原因、対応、対策)、災害や避難時についてなど議題にあげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の利用者状況、待機者の報告や事故報告、介護相談員の受け入れなど町との連携に努めている。又、町主催の勉強会を通して他のホームとの情報交換に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの取り組み」を提示し、職員の身体拘束についての理解を得ている。しかし、どうしても安全面よりベッド柵が必要な方はご本人、ご家族に説明、同意のもと使用している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待についての勉強会を設けている。言葉による虐待については具体例を出し、職員間の理解を深めることで虐待のないホームに取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度より日常生活支援事業から成年後見人に移行された方がみえるが、制度についての理解は一部の職員しか出来ていない現状である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ありのままのホームを見て頂き、説明、ご理解、ご納得の上でご承諾を頂いている。契約後も不安や疑問点、ご要望などには、説明と出来る限りの柔軟な対応に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは何でも気兼ねなく話せる関係作りに努めている。頂いたご意見は早急に話し合い、改善に取り組んでいる。介護相談員の受け入れを行い利用者の方の思いの聞き取りに取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1階のミーティングで、業務の改善点に向けての話し合いを設けている。トイレの手すりやお風呂場の手すりなど、職員からの意見を元に出発することから取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得を奨励している。時間外労働書類の見直しを行い、残業内容を明確にし把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修や中堅研修、実務者研修など外部研修への参加に取り組んでいる。学んだ研修内容は職員会議を通して他の職員への共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会を通して地域のグループホームとの情報交換や他ホームとの外出や管理者との情報交換を行いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接では必ずご本人に会い、リラックスした雰囲気作りに心がけ、本人の思いや不安を聞き取り受け止めるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が何が困っているのか、何を求めて見えるのか、ご本人との思いのずれなど、傾聴する中で受け止めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と相談の上、サービスの開始時期を調整している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として利用者に生活の知恵など逆に教えて頂くこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月郵送する暮らしの日記を通して、利用者の様子や状態を報告し、理解受け止めていただく中で、共にご本人を支えあう支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	玄関は施錠せず、日中は開放している。ご家族以外に知人や昔の同僚の訪問がある。なじみの場所への外出の支援には努めているが、車イス利用者が多くなった現状である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアでの過ごし方、食事の席等、利用者同士が心地よい関係でいられるように、出来るだけの配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了後もご本人の面会に行ったり、ご家族と連絡を取り、経過の把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の暮らしの中で、一人一人の思いや意向を汲み取るよう、努めている。また、その日の生活ペースもご本人に合わせている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにおいてこれまでの暮らしや生活歴の把握に努め、新しい情報や気付きは職員が書き込めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ごとに介護記録を作成し、一日の流れとして把握できるようにしている。また、心身の状態での気付きは看護師、他の職員にも伝え経過をみている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでケアの振り返りを行っている。それ以外のプラン修正については、日勤者で話し合い、連絡ノートに記入しケアに取り組んでいる。ご家族面会時には、状態報告を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとの介護記録やケアプランを載せ、ケアを実施した結果や状況を記録に残している。又、こうした方がいいという意見は会議で話し合い取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物やご家族が対応できない時の通院介助、散髪サービスを行っている。また、利用者が結婚式に出席するための付き添い介助を行った。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と同じ町内の方主催のボランティアや馴染みある喫茶店への外出支援、利用者と一緒に消防、避難、消火訓練への参加に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホーム連携医の説明を行い、希望のかかりつけ医の確認を行っている。又、緊急時はどの病院希望かわかるように掲示してある。ご本人の情報も一つのファイルにまとめてある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中看護師が在籍しており、介護職との情報交換や健康管理に努めている。看護師は主治医と連携を図り、内服管理や状態把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は早期に面会し、ホームでの情報提供に努めている。退院においては現在の状態を把握し、ホームで出来ることと出来ないことなど医療側と話し合い、退院調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けて事業所としてできること、できないことをご家族に説明し、ご理解に努めている。また、かかりつけ医や協力医と相談しながら、方針を定めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は消防の方に来ていただき、ホーム内で心肺蘇生、誤嚥、窒息の勉強会を行う事を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中想定通報訓練、避難訓練、消火訓練を実施している。運営推進会議をとおして避難誘導後の利用者の安全確保を地域の方へのご理解とお協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングで接遇やプライバシーの勉強会を行い、高齢者の尊厳を守ること、あたたか言葉を遣う事を今年度の目標として掲げている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いにじっくり向き合うように取り組んでいる。又、生活の中で自己決定する場面作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や体調に応じて、その日その日のご本人のペースに合わせた生活に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択が出来ない方はこちらで選んでいる。生活の中で汚れたままになっていないか、肌着が出たままになっていないか、細やかな身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭に出来た季節の野菜を一緒に調理したり、座って出来る下ごしらえなど交流の場として取り組んでいる。食事は職員も同じテーブルで大家族としていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせて、刻みの大きさやミキサー、お粥、トロミ剤の使用など、美味しく安全に食べていただける様努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食口腔ケアを行っており、歯科の先生お勧めのお茶での口腔ケアを行っている。洗面台に届かない方は洗面器を使用して行っている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表活用にて一人一人の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄に取り組んでいる。また、少しでもご家族の負担が軽減できる様、オムツ、パットの見直しを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1か月の排便習慣が分かるように記録しており、毎朝の牛乳やヨーグルト、内服が必要な方は日中に排便が出るように、内服時間を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回がベースにあるが、その日の体調や気分に応じて曜日の変更をしている。また、浴槽イスや介助人数など入浴方法も一人一人に応じた方法で行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠状況やその日の体調を考慮し、一人一人に合わせた休息を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前、用法、日付を記入し、職員が声に出して確認しながら配薬もしくは介助を行っている。症状変化に伴う服薬の判断は看護師のもと、行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調や気分を考慮しながら、調理活動やお茶っぱ詰め、洗濯たたみや新聞たたみ、レク活動としてクッキー作りやケーキ作りなど楽しみごとの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の外に行きたい希望が当日職員で対応できない時は、ご家族にお願いしご協力を得ている。また、楽しみごととしてスーパーやマック、ミスタードーナツ、喫茶店など外出支援を行っている。		

岐阜県 グループホーム百々

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の力量とご家族の意向に応じてお金を所持して見える方もみえる。持って見えない方は、こちらで立て替え、月末の請求書につけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居間も無い方は、不安から電話を希望された時にご家族の了解を得ており、出来るだけご本人が安心できるように努めている。手紙を書かれる方もみえ、職員に気兼ねなく投刊を依頼される。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアは車イスの移動がしやすいようにテーブルの間を広く取ったり、ソファを設置している。季節感ある貼り絵や折り紙などの作品が飾られている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は利用者同士の関係を考慮した席の配置にしている。食事以外はソファに座られたり、車イスの向きを変えてテレビを見られるなど思い思いに過ぎて頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染みあるものをお勧めし、ご本人にとって安らげる居室作りに努めている。安全面を配慮し、クローゼットの活用やベッドの向きも考慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」「安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できること、わかることを尊重し、トイレでの排泄をできるだけ行っている。また、介助しすぎず、励ましながら出来る力を維持できるように取り組んでいる。		